

進捗報告書（実行団体）

Version 1.0

2021年9月23日

事業名:	災害時のペット関連を主とした支援活動
資金分配団体:	公益財団法人佐賀未来創造基金
実行団体名:	特定非営利活動法人 日本レスキュー協会
実施時期:	2021年4月～2022年2月
事業対象地域:	九州
事業対象者:	災害弱者（ペット、高齢、障害、外国人等）

I. 事業概要

事業概要

これまで犬と共に活動してきた実績を活かし、災害時に災害弱者となり得るペット飼育世帯救済の仕組みを構築する。佐賀県内拠点は、ペット同行避難が可能な避難所およびペットの一時預かり場所として機能させる為に、避難所運営マニュアル作成や、コロナ禍におけるペット同行避難訓練を実施し飼い主の意識改革を図る場とする。またコロナにより他県からの支援が制限される県外の災害でも、直接現地へ赴くことなく連携団体を通じて必要な場所に必要な物を迅速に支援できるように平時からのネットワーク構築を目指す。これと並行して、ペットだけでなく幅広く行政やNPO等と協働し、様々な理由により避難所での生活が困難な方を多角的に支援する。また、令和3年佐賀豪雨災害によって被災された方々を中・長期的に支援する為、地域に根付いた支援活動を実施する。この活動は、ペット用の物資支援などペットに関する救済だけでなく、佐賀内の災害支援ネットワークに参画し県域の被災状況を俯瞰するだけでなく、各被災行政にも関わりながら被災者のニーズを漏れることなく抽出し、支援につなげていく。

II. 進捗報告の概要

総括

全体として、日程の遅れはあるが、想定活動を順次進めている。懸念点としては世界的なウッドショックの影響により建物の完成時期に多少の遅れが発生してしまい、現在の完成予定は今年度の12月～1月となっている点。2月に訓練を実施予定の為、グランドオープンを待たずして開催する予定。

ネットワークの構築に関しては、令和3年豪雨災害での支援活動を通して、実働しながら多くの行政やNPO等と連携することができ、事業期間内でこの想定はしていなかったものの結果的には当初想定していたネットワークの構築よりも強固な関係性が生み出されている。このネットワークの拡張や充実性は今後も更なる発展が十分に期待できる。また、佐賀県内の災害支援ネットワークの活動と連携し地域に根付くことによって、被災地の実態把握が進み、喫緊の課題の共有やフェーズに合わせた支援の采配に努めている。併せて地域住民の認知拡大も進んでいると感じる。

Ⅲ.活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
<p>①コロナ禍におけるペット同行避難所に必要な設備及び備蓄が整っている</p> <p>②ペット連れの地域住民が訓練に参加し、拠点の周知と飼い主の意識改革が行われている</p> <p>③運営マニュアルが作成されている</p> <p>④ネットワーク会議が実施され、県内ネットワークが構築される。（佐賀市、大町町、武雄市、県獣医師会、災害支援ネットワーク：医療、外国人、ファンドレイジング、ロジ他）</p> <p>⑤ネットワーク会議が実施され、県外ネットワークが構築される。（福岡県：獣医師会、ワンヘルスネットワーク、熊本県：熊本県動物愛護センター、市民団体、大分県：NPO）</p> <p>⑥地域に根付き住民の生活再建のために中長期的に支援ができる</p>	<p>① ②④同行避難所となる建物は8月より着工開始し、今年度の12～1月に完成予定。2月に大規模なペットとの同行避難を想定した訓練を実施予定。また建物内の備品、コロナ対策の備品など見積もりを出してもらい購入予定。一部オンライン参加も検討し、ネットワーク会議用の電子黒板は建物の完成に合わせて納品できるように発注済。緊急用の大型発電機も発注済。プレハブは発注し、すでに納品済。今後は事務用品、備蓄などの数を出し業者に見積もり依頼予定。</p> <p>③ 拠点をペット同伴避難所として運用するにあたり避難所運営マニュアル、避難者向けルール作りを進めている段階。加えて、住民向けのペットとの避難のためのガイドラインについて、熊本のHUG 富士岡氏の監修のもと作成を進める。また各自治体のペット関連のマニュアルを参考にしながら、運営側の負担軽減と避難者側の自主性発揮の両立が叶うような基準作りを目指す。また、避難者向けのルールについては、運営側で詳細を決めず、避難者（飼い主）が自主性をもってルールの制定や運用を行えるような仕組みづくりを目指す。</p> <p>④ ⑤ネットワークの構築に関しては県域の支援体制のための連絡協議会の設置を目指し、県の関連課との顔の見える関係の構築ができています。令和3年8月大雨により佐賀県内で発生した災害においても、行政関係、社会福祉協議会、県内外団体などとの関わりが支援活動を行う中で新しく構築されて行っている。</p> <p>⑥令和3年8月大雨にて被災した大町町、武雄市での復旧支援活動を行う中で行政、社会福祉協議会、CSO、県外支援団体と頻りに連絡・連携をとっており、オンライン会議や活動を通してベースが出来てきている。</p>

活動	進捗状況	概要
<p>① 県内ネットワーク構築：佐賀市、大町町、武雄市、県獣医師会、災害支援ネットワーク（医療、外国人、ファンドレイジング、ロジ他）、会議開催</p> <p>② 県外ネットワーク構築：福岡県（獣医師会、ワンヘルスネットワーク）、熊本県（熊本県動物愛護センター、市民団体）、大分県（NPO）、会議開催</p> <p>③ 避難所運営訓練準備：講師選定、被害想定、会議開催など</p> <p>④ 避難所運営マニュアル作成及び印刷：コロナ禍におけるペット同行避難が可能な避難所運営に関するマニュアルづくり</p> <p>⑤ 設備・什器の購入</p> <p>⑥ 避難所及びネットワーク拠点となる建物完成予定：佐賀県杵島郡大町町</p> <p>⑦ 避難所及びネットワーク拠点への設備・什器の搬入</p> <p>⑧ 令和3年8月豪雨災害支援避難所運営訓練：行政、市民団体、県民（特に被災経験のあるペットを飼っている大町町民に声がけしたい）が参加する訓練</p>	<p>①②ネットワークの構築に関しては県域の支援体制のための連絡協議会の設置を目指し、県の関連課との顔の見える関係の構築ができています。令和3年8月大雨により佐賀県内で発生した災害においても、行政関係、社会福祉協議会、県内外団体などとの関わりが支援活動を行う中で新しく構築されて行っている。6月25日には福岡県と災害時における災害救助犬の移動協定を締結。また休眠預金事業にて紹介いただいた県外団体とも連携していきたい。</p> <p>③④住民向けのペットとの避難のためのガイドラインについて、熊本のHUG 富士岡氏の監修のもと作成を進める。また各自治体のペット関連のマニュアルを参考にしながら、運営側の負担軽減と避難者側の自主性発揮の両立が叶うような基準作りを目指す。</p> <p>⑤⑥⑦同行避難所となる建物は8月より着工開始し、今年度の12～1月に完成予定。建物内の備品、コロナ対策の備品など見積もりを出してもらい購入予定。ネットワーク会議用の電子黒板は建物の完成に合わせて納品できるように発注済。緊急用の大型発電機も発注済。プレハブは発注し、すでに納品済。今後は事務用品、備蓄などの数を出し業者に見積もり依頼予定。</p> <p>⑧拠点をペット同伴避難所として運用するにあたり避難所運営マニュアル、避難者向けルール作りを進めている段階。加えて、住民向けのペットとの避難のためのガイドラインについて、熊本のHUG 富士岡氏の監修のもと作成を進める。また各自治体のペット関連のマニュアルを参考にしながら、運営側の負担軽減と避難者側の自主性発揮の両立が叶うような基準作りを目指す。また、避難者向けのルールについては、運営側で詳細を決めず、避難者（飼い主）が自主性をもってルールの制定や運用を行えるような仕組みづくりを目指す。</p>	<p>ほぼ計画通りだが、ウッドショック等の影響により建物の完成が11月～12月から12月～1月にずれ込んでいる。</p>

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述

当初、目標とする状態の中に被災時の復旧の拠点、ペットとの同行避難可能となる一次避難所となることを想定していた。

現在、執行率の数値は低いものの、活動はスムーズに進み、目標とする状態は構築されると予想される。特に、ネットワークの構築に関してはかなりの達成率が期待でき、大町をモデルに武雄市や嬉野市も動き始めている。

V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥0	¥17,492,800	¥17,492,800	¥5,203,285	30%
	管理的経費	¥0	¥2,000,000	¥2,000,000	¥742,500	37%
合計		¥0	¥19,492,800	¥19,492,800	¥4,040,785	21%
補足説明		当初直接事業費¥8,492,800、管理的経費¥2,000,000だったが、追加助成により直接事業費+¥9,000,000の¥17,492,800 PC4台購入100万円。委託費96万円は請求書待ち。（請求書待ち2件を含めると7,163,285円執行率約41%）				

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応

当初目標とする状態の中に被災時の復旧の拠点となることを想定していたが、完成前に令和3年8月大雨にて拠点建設中の町である大町町が被災してしまった。現在大町町社協と大町町ボランティアセンターが復旧の拠点（大町町）となっているが、現在建設中の建物（広さなど）、設備だけで復旧拠点としての十分なのかを、再度見直しが必要と感じている。

VII. その他

自由記述

特になし

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等)	有	令和 3 年豪雨災害支援活動取材 ・NBC ラジオ RADIO KING ・Cable one ・NBC ラジオ「あさカラ！」
広報制作物等	有	年に 4 回発行の当協会の広報誌 80 号にて休眠預金事業の採択団体であることを報告。
報告書等		

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	休眠預金申請時に追加した「ガバナンス・コンプライアンス整備に向けた基本規程」の第 2 章に記載